

【冬期間における水抜き方法】

県営宮野目アパート 3号棟 (313号室は別紙)

冬期間、水道管の凍結の恐れがある場合や、長期間不在にする場合に行ってください。
◇玄関付近、外廊下に面したパイプシャフト内の、給水弁、水抜弁及び湯抜弁を操作します。

水抜き手順

1. パイプシャフト内の「①給水弁」レバーを「閉栓中」に切り替える。
2. 次に「②水抜弁」を「時計回り」に止まるまで回してください。
3. 続いて「③湯抜弁」を「反時計回り」に止まるまで回してください。
4. 室内の各蛇口を水、お湯ともに動かし水を抜きます。トイレは2回程度流してタンクを空にしてください。
5. 洗濯機に接続の給水ホースは一度取外して水抜きを行い、水抜完了後に再度取付てください。
6. 各蛇口から水滴が落ちなくなったら水抜き完了です。水抜きが終わったら、事故防止のために全ての蛇口を閉めておくようお願いします。

通水手順

1. 全ての蛇口が閉まっていること、洗濯機の給水ホースがつながっていることを確認してください。
2. パイプシャフトの「③湯抜弁」を「時計回り」止まるまで回してください。
3. 次に「②水抜弁」を「反時計回り」に止まるまで回してください。
4. 続いて「①給水弁」レバーを「通水中」に切り替えてください。
5. 各蛇口をゆっくり開いて水を出してください。いきなり蛇口を開くと水と空気が飛び散る場合がありますのでご注意ください。

※水抜弁及び湯抜弁のハンドル操作は「全開」または「全閉」としてください。
中途半端な状態での使用は、漏水の原因となります。

① 給水弁
この部分の裏側に赤いレバーがあります。



③ 湯抜弁

② 水抜弁

パイプシャフト



給水弁の拡大図

給水弁の写真は、通水状態のものです。
レバーの裏表に、「通水中」、「閉栓中」の表示があります。

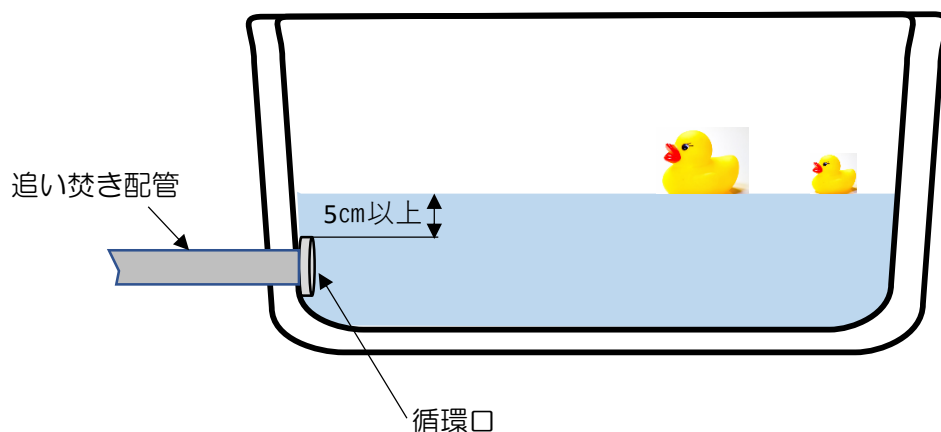
給湯器の凍結防止について

お住まいのお部屋には、給湯器が設置されております。凍結による故障は自己負担となりますので、先の水抜き操作に加え、以下のことをお守りください。

- ① 冬期間中は、長期不在の場合も、室内の契約ブレーカーを切らないでください。
また、室内分電盤の『給湯器及び凍結防止ヒーターのブレーカー』は、絶対に切らないでください。
- ② パイプシャフト（水道メーターがあるところ）に、凍結防止ヒーターがある場合は、コンセントが差し込まれているか確認し、抜けている場合は差し込んでください。
給湯器がベランダにある場合は、その周りの配管にも凍結防止ヒーターが巻いてあります。
どちらの場合も冬期間は必ず『コンセントが抜けていないか確認』をお願いします。
- ③ 給湯器のコンセントも抜かないでください。（給湯器本体のヒーターが作動するため）

※ **追い焚き機能の付いている浴槽**は、循環口より5cm以上になるように水を溜めておいてください。（残り湯で構いません）

∴給湯器が外気温を感知して、自動で追い焚き配管内の水を循環し、凍結を防止します。



追い焚き機能がない場合は、水は溜めておかないでください。

- その他詳細については、各取扱い説明書をご確認ください。
- 長期不在などにより電力の契約解除を行う場合は、事前に住宅センターにもお知らせください。